

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成 25 年 11 月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が57.5%で最も高く、次いで「信用金庫」が30.1%となった。この2つで全体の約9割を占めている。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）で見ると、全体では27.9となった。大きく緩和した前回からはわずかに低下した。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が70.2%と最も高い。「上昇」と「低下」をみると、「上昇」を「低下」が上回っているものの、前々回と比べると、その差は縮まってきている。
- 最近の借入金利は、「2%未満」が42.9%と最も高く、次いで「2%台」が40.0%となった。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）で見ると、全体では24.3（前回18.7）となり、年末に向けて資金需要が増加している。
- 今後1年間に設備資金の借入を考えているかについてみると、全体では「考えている」が16.3%となった。金額は5千万円未満が約8割であった。

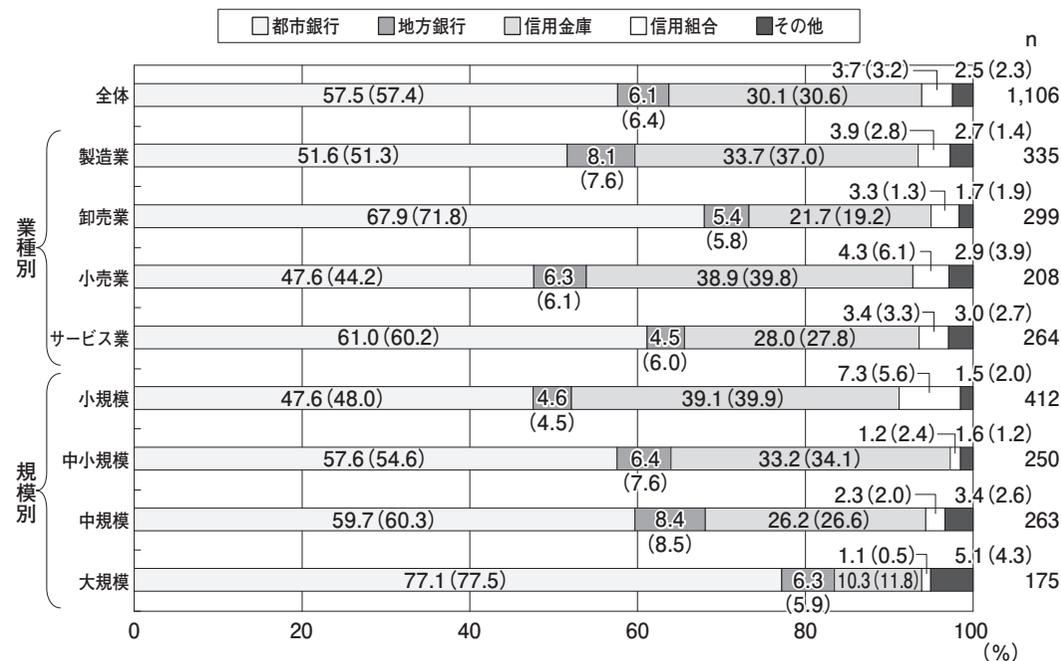
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関については、全体では「都市銀行」が57.5%（前回57.4%）で最も高く、次いで「信用金庫」が30.1%（同30.6%）となった。この2つで全体の約9割を占めている。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、なかでも卸売業とサービス業では6割を超えている。一方、製造業と小売業では、第2位の「信用金庫」も3割以上と比較的高い。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が約5割、「信用金庫」が約4割であるのに対し、大規模では「都市銀行」が約8割を占めており、規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなっている。

図表 1 主な取引金融機関



注)無回答を除き集計。規模不明を除く。()内は前回値(平成25年5月調査)。

2 借入や返済に対する姿勢

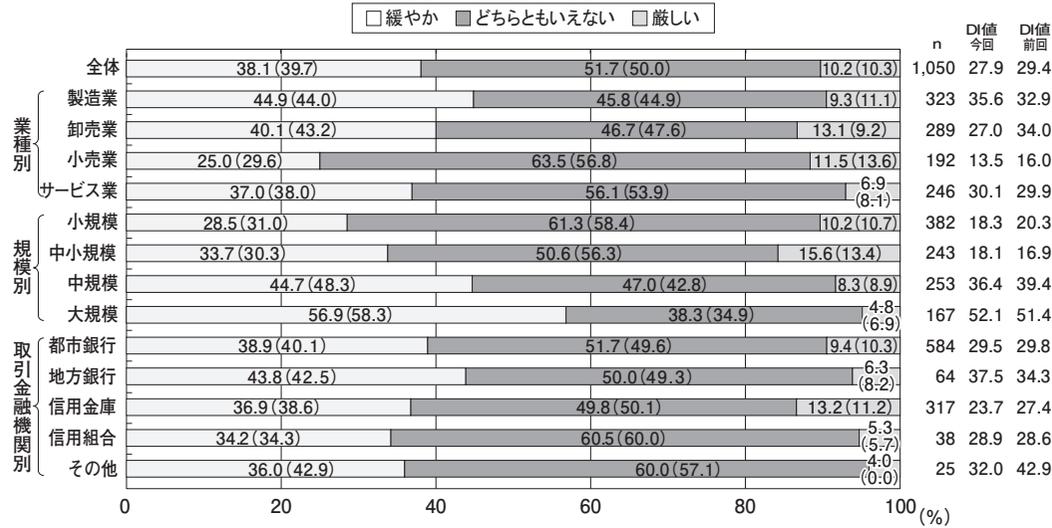
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）で見ると、全体では27.9と「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。大きく緩和した前回（29.4）からは、1.5ポイントとわずかに低下した。

業種別にみると、製造業35.6（前回32.9）は2.7ポイント改善し、他の業種に比べ最も状況が良くなっている。一方、卸売業27.0（同34.0）と小売業13.5（同16.0）は悪化した。

規模別にみると、小規模18.3（同20.3）と中規模36.4（同39.4）でやや悪化した。大規模はDI値が52.1（同51.4）と高く、小規模や中小規模に3倍近くの差をつけている。

取引金融機関別にみると、都市銀行29.5（同29.8）はほぼ横ばいで推移したが、信用金庫は23.7（同27.4）と悪化した。

図表2 取引金融機関の借入等に対する姿勢



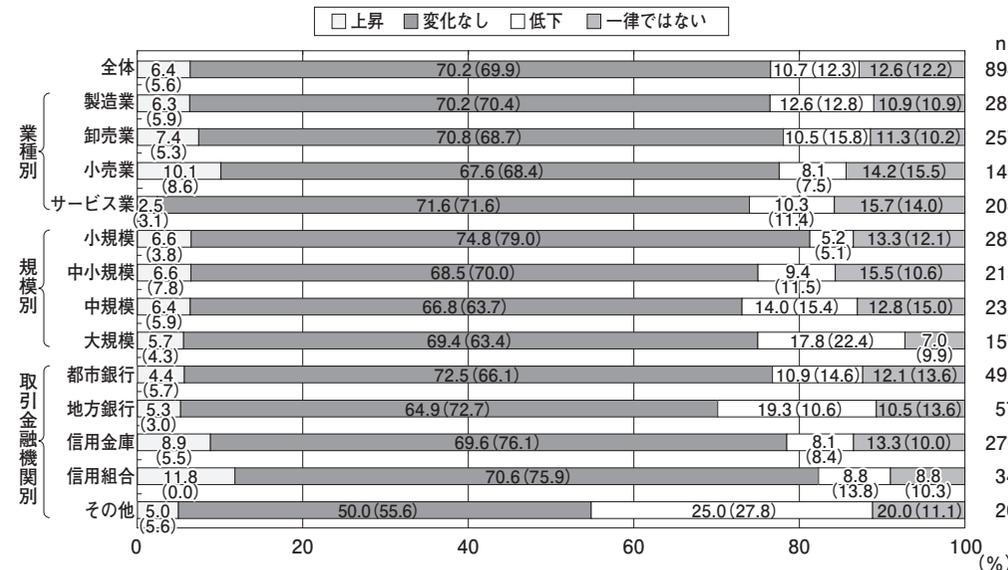
注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成25年5月調査)。

3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が70.2% (前回69.9%) と最も高い。「上昇」と「低下」をみると、「上昇」6.4%を「低下」10.7%が上回っているものの、前々回(平成24年11月調査)と比べると、その差は縮まってきている。

図表3 金利傾向



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成25年5月調査)。

規模別にみると、小規模以外で「低下」が前回よりも減少したが、依然として規模による差は大きく、大規模17.8%は小規模5.2%の3倍以上となっている。

(2) 金利水準

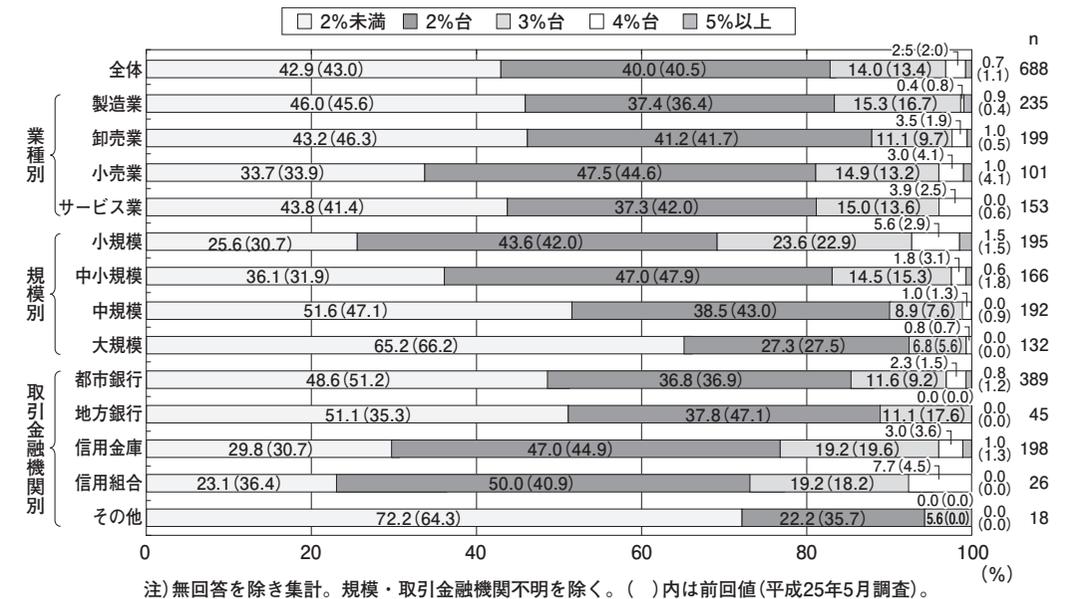
最近の借入金利は、「2%未満」が42.9% (前回43.0%) と最も高く、次いで「2%台」が40.0% (同40.5%) となった。前回に比べ、全体的な変動はわずかだった。

業種別にみると、製造業では2%台以下の割合(「2%未満」と「2%台」の合計)がわずかに増加、反面、卸売業では減少した。小売業は唯一「2%台」が「2%未満」を上回っており、他の業種に比べると金利水準が高めとなっている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「2%未満」が高くなっている。前回に比べると、小規模で「2%未満」が25.6% (同30.7%) と5.1ポイント減少し、他の規模との差がひらいた。

取引金融機関別にみると、回答企業の取引割合が高い都市銀行で「2%未満」が48.6% (同51.2%) と前回よりも減少し、半数を下回った。

図表4 金利水準



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成25年5月調査)。

4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)でみると、全体では24.3 (前回18.7) となり、年末に向けて資金需要が増加している。

業種別にみると、製造業以外でDI値が上昇、特に小売業と卸売業の上昇幅が大きい。規模別、金利水準別にみると、全ての区分でDI値が上昇した。

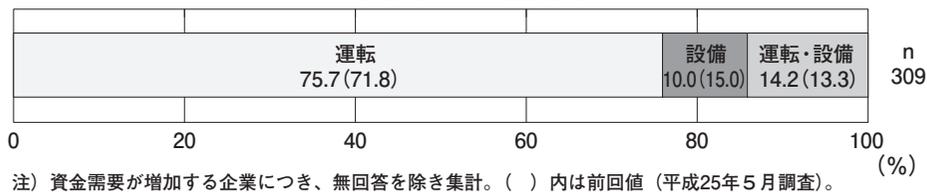
図表5 資金需要（今後3か月間）



(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」75.7%が最も高く、次いで「運転・設備」が14.2%、「設備」が10.0%となった。前回に比べると、「運転」が3.9ポイント増加し、「設備」が5.0ポイント減少した。

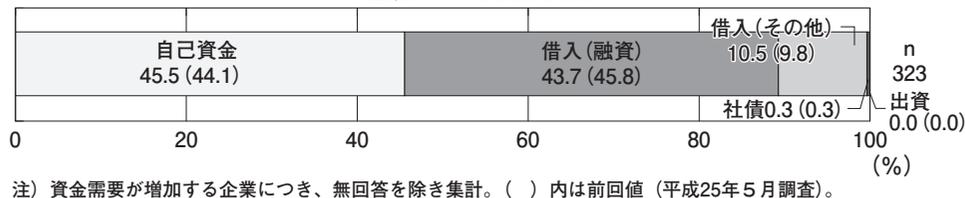
図表6 資金使途



(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「自己資金」45.5%が「借入（融資）」43.7%を上回り、最も高くなった。前回に比べ「自己資金」が1.4ポイント増加し、「借入（融資）」が2.1ポイント減少した。

図表7 調達手段



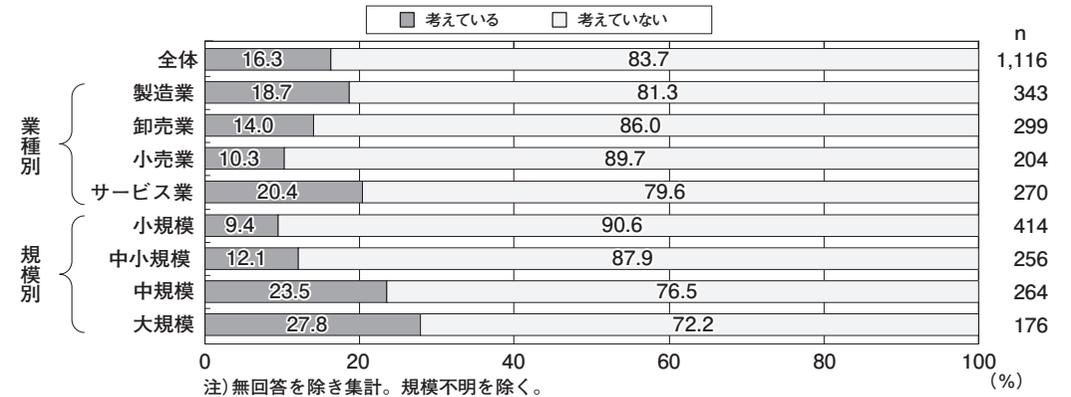
5 今後1年間の設備資金借入の検討状況

今後1年間に設備資金の借入を考えているかについてみると、全体では「考えている」が16.3%となった。

業種別にみると、「考えている」は、サービス業が20.4%と最も高く、次いで製造業が18.7%となった。一方、小売業では10.3%にとどまった。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「考えている」が高くなっており、大規模では27.8%となった。

図表8 設備資金借入の検討状況（今後1年間）



設備資金の借入を考えている企業について、その金額をみると、全体では「1千万円以上5千万円未満」が41.2%、次いで「1千万円未満」が38.4%となった。

業種別にみると、製造業と卸売業では「1千万円以上5千万円未満」が、小売業とサービス業では「1千万円未満」が最も高くなった。卸売業では「2億円以上」の借入を検討している割合が12.5%と、他の業種に比べて高くなっている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど金額が高くなる傾向がある。小規模では5千万円未満が94.7%を占めるが、大規模では5千万円以上が約4割に達している。

図表9 設備資金の借入予定金額

